

看見都市森林的文化性：「綠」所訴說的 土地歷史

◎東京大學農學院農學生命科學研究科森林科學專攻・下村彰男(作者)

◎林業試驗所森林經營組・徐中芃(譯者/peng@tfri.gov.tw)

1. 文化性への関心

1992年、ユネスコの世界遺産委員会において「文化的景観」の区分が設けられた。この文化的景観は、「世界遺産条約履行のための作業指針」において、「人間と自然との相互作用によって生み出された景観」と定義されており、東アジアの棚田や欧州のブドウ畑などが認定されている。こうした動きを受けて、日本においても2004年に文化財保護法が改正され、文化的景観が文化財の一概念として位置づけられた。

1872年にイエローストーン国立公園が創設され、原生自然環境の価値や素晴らしさが認められてから120年を経過し、人と自然との相互作用、言い換えると人為の加わった二次的自然環境の文化性に対する関心が高まり、その価値が認められるようになってきたと言える。

そして、こうした自然をも含んだ環境の文化性は、「まちづくり」においても重要な資源と考えられるようになってきている。日本では2006年に成立した歴史まちづくり法において、「歴史的風致」という概念が組み込まれ、歴史的な市街地と人々の伝統的な活動や生活様式とが形成してきた総合的な環境が重視されて、良好に継承しようとする動きとなっている。

2. 「緑」(森林や緑地)に刻まれた文化性

こうした人との相互作用が生み出した「緑」の文化性は、都市においても色濃く見いだすことができる。「緑」の形態や風景には、その場所における人と自然との関係の歴史が刻み込まれ

1、對文化性的重視

1992年，聯合國教科文組織的世界遺產委員會中增設了文化景觀的項目。在世界遺產公約作業準則中，文化景觀指的是人類與自然環境的交互作用下所形成的生活風貌，例如東亞的梯田以及歐洲的葡萄園等。順應這樣的潮流，日本在2004年修正了文化財保護法，認定文化景觀也是文化財的範疇之一。

為保護原始的自然環境及其價值，美國的黃石國家公園在1872年成立，而在120年後，人類與自然環境的交互作用下所產生的文化景觀漸漸受到了重視，也就是說，人類在自然環境中所孕育的文化價值得到了肯定。這樣的文化性在社區總體營造中漸漸變成重要的資源，日本在2006年制定的歷史社區總體營造法裡，融入歷史性景致的概念，注重歷史性的城鄉面貌與人類傳統活動及生活樣式等所形成的複合型環境，讓文化性得以完好地傳承。

2、刻畫在「綠」(森林及綠地)當中的文化性

如上所述，在人類與自然環境的交互作用下所產生的「綠」的文化性，即使是在都市之中，也可以色彩鮮明地凸顯出來。「綠」的型態及風景，刻畫了該地人與自然的關係，因此透過對「綠」的觀察，可得知所蘊含的特徵與文化性。以下介紹四個東京的案例，以進一步了解「綠」是用什麼樣的形式將文化性內含在其中。

如圖1所示，沿著貫穿東京的多摩川，從

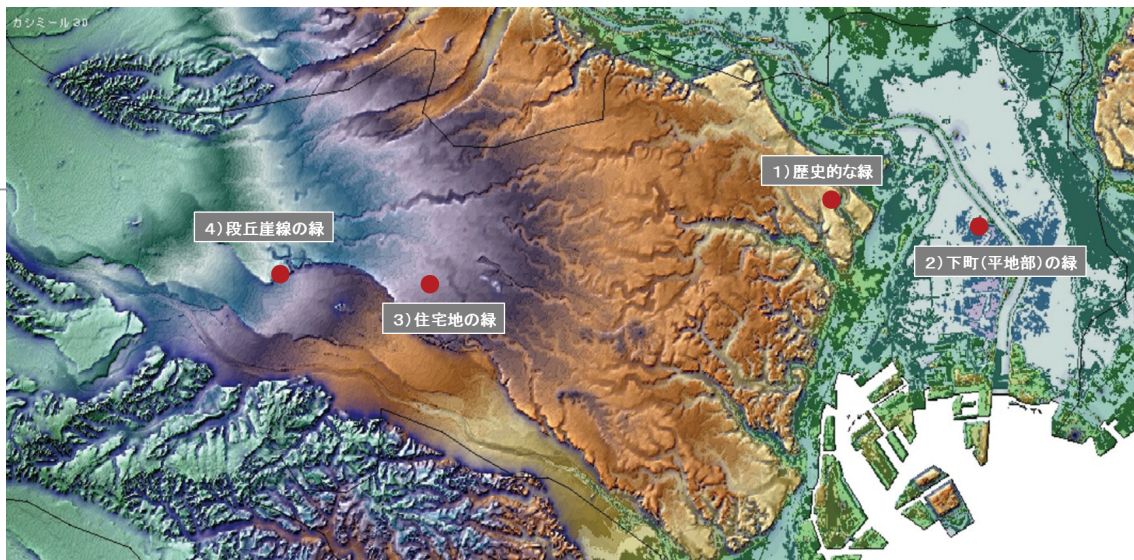


図-1 起伏に富んだ東京の地形(「KASHIMIR 3D」により作成)。圖1 富有變化的東京地形(KASHIMIR 3D製圖)。

ており、「緑」を注意深く見ることで、地域の個性や文化性を読み取ることができる。ここでは、東京における幾つかの事例を紹介しながら、都市の「緑」がどのような形式で文化的情報を内包するのかについて考えてみたい。

東京都は、図-1に示すように、東西に貫く多摩川に沿って、山地域、丘陵域、臺地域、平地域とつながっている。そして以下に述べるように、変化に富んだ地形の状況に応じて様々な人の営みが展開し、各地の「緑」に歴史の記憶を蓄積してきた。

(1) 歴史的な緑: 護られてきた緑

「緑」の中には、巨樹や社寺林など、古くから名所として知られ、文化的な遺産・資産に指定されるなど、それ自身の歴史的な位置づけが明確なものが存在する。写真は筆者が所属する東京大学のキャンパス内にある池を中心とした緑地である。近世の大名屋敷(地方藩主の江戸住居)の庭園が緑地として残されており、大学のキャンパスが古い大名屋敷の跡地に形成されたことを示す「緑」として人々に親しまれている。(図-2)

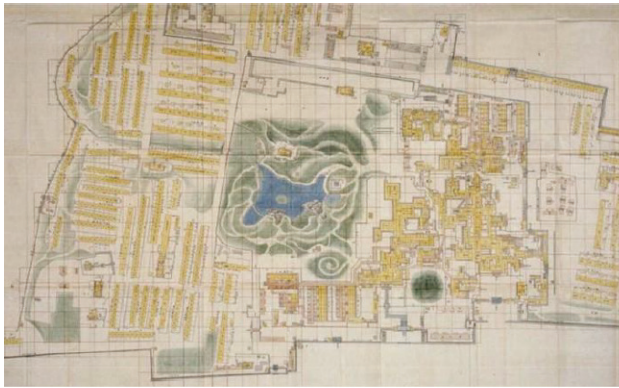
東到西有分別有山區、丘陵、臺地以及平地等不同的地形變化，而這些地形隨著人類所進行的不同活動，蓄積在土地上的歷史記憶也就有所不同，詳見下述的四個例子。

(1) 歷史上所保存的綠色資產

「緑」的風景裡，像是老樹以及神社或寺院的森林等，有些是自古以來的名勝，並被列為受保護的文化資產，具有明確的歷史定位。圖2為筆者所任教的東京大學校園中的森林風景，這片以池子為中心的森林原為江戶時代中大名屋敷¹的庭園，保存至近代則以校園綠地的風貌讓社會大眾也能夠一親芳澤。

(2) 下町地區(舊城區)樹木所刻畫的歷史

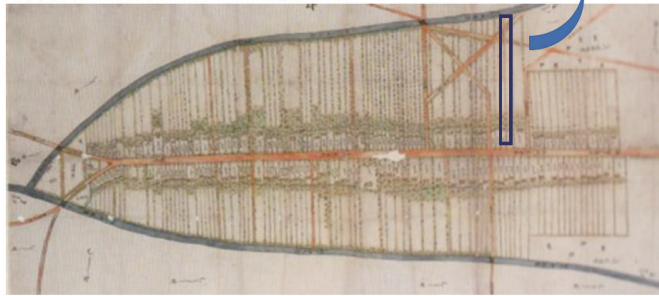
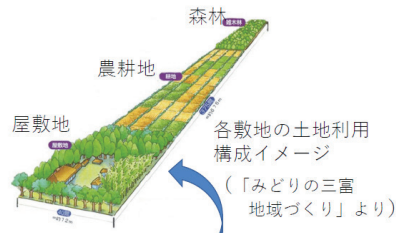
在部分區域可發現偏好栽種特定的樹種，而從這些樹種則可窺見該地的歷史及自然條件。例如，在東京的下町地區，常見到以鈴懸木²作為行道樹及公園樹木，原因之一是因為在明治及大正時期(19世紀後半到20世紀前半)，當時的社會對歐風城市的嚮往。另一個原因是在關東大地震(1923年)後，為了阻止平地區域火勢的延燒，因



「江戸御上屋敷絵図」1840-1845年
(金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵)

育徳園 (東京大学)

図-2 大名屋敷(加賀藩)庭園を継承した東京大学の緑。圖2 東京大學的育徳園原為江戸時代的大名庭園。



小川村短冊形地割図 (「小川家古文書」より)

図-3 17世紀新田開発の記憶をとどめる住宅地の「緑」。
圖3 住宅區裡留下新田聚落開發後的「綠」。

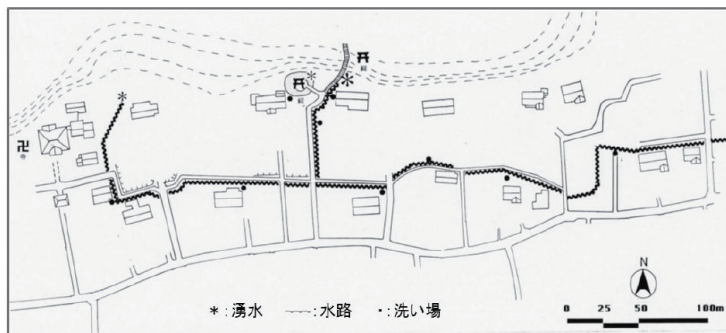
(2) 下町(平地部)に多い樹種: 樹種に刻まれた歴史

また、地域によっては目にする植栽の樹種に偏りがあり、その樹種が地域の歴史や自然条件を物語る場合がある。例えば、東京の下町(平地部)では街路樹や公園植栽として、プラタナスが最も多く用いられている。これは、明治・大正期(19世紀後半～20世紀前半)に都市の欧風らしさを演出する樹種として好まれたこと、そして関東大震災(1923年)で火災による大きな被害をうけた平地部において、延

此選用葉量較多的樹種作為行道樹。如上述，即使是植栽樹木也可看出當時的流行以及所留下的歷史記憶。

(3) 住宅區裡的「綠」所殘存的歷史記憶

圖3為東京近郊的住宅區風景，平行的道路區劃，且可看見筆直的道路上綿延著綠色植栽，這樣的景致是近代(17世紀)新田聚落開發後所留下的痕跡。當時的江戸(東京)有一百多萬人口，為取得足夠的糧食來源，在近郊的台地上開闢了灌溉水路及狹長型的農地³。而到了現代，在都市擴張與



段丘崖線下の集落構成(国分寺)

(松本浩:「東京西部における伝統的農村集落の湧水と水路を軸とする空間構造に関する研究」)

1997年:東京大学農学生命科学研究科・修士論文より)

図-4段丘崖線下集落の歴史的風致を構成する「緑」

圖4 河階臺地崖線下の「緑」(國分寺)

焼を防止することを目的として、葉量の多さから街路等に植栽された歴史を示している。このように、植栽樹種にも、時代的な流行(関心)や、歴史の記憶をとどめているものがある。

(3) 住宅地の緑:緑の形態に刻まれた歴史

図-3の写真は、東京の住宅地の庭木が創出する緑の風景である。延々と続く道路に沿って線状の緑を形成している。この周辺は、こうした長く続く道路が平行して何本も走っており、その道路沿いに線状の緑が形成されている。これは、近世期(17世紀)の新田開発の名残である。近世期の江戸(東京)は100万人余りの人口を抱える世界有数の大都市であった。その人口を支えるために江戸近郊に広がる台地上に水路が開削され、短冊状に農地が開発された。近代になり、人口が急増する過程で住宅地開発が急激に進み、従前の新田集落の区画がそのまま活用され、現在の街区にもその風景を残しているのである。

(4) 段丘崖線の緑:歴史的風致の一要素

一方、台地から多摩川へ下る河岸段丘の崖線下は、湧水があり古くから集落が展開して

開発下、農地雖然變成了住宅區，但原先狹長型的區劃仍可在住宅區中找到其殘存的風貌。

(4) 河階台地所呈現的歷史景致

另一方面，在河階台地上因為有湧泉，因此早期聚落的發展即從此處開始。主要的湧泉多以神社保護著，而所延伸出來的水路則變成了形成聚落的主幹(圖4)。10~20公尺高的河階崖線上，生長著以落葉闊葉樹林為主的次生林，這樣的樹林形成了聚落的背景，也是構成該地歷史景致的重要元素之一。近年，沿著河階崖線及水路上的小徑則被規劃成步道，成為人們休閒遊憩的場所。

3、困惑的歷史場景

如以上所述，都市及都市近郊的自然環境在與其他要素的作用下，成為該地方蓄積歷史與自然的重要履歷。雖然這樣的文化性已漸漸被活用在社區總體營造中，但是，讓人感到困惑的風景營造仍是不少。例如，圖5為海埔新生地上所建置的都市公園，但其植栽及水池(淡水)的規劃與一般內陸的公園無

いた。主要な湧水点には神社が立地して護られ、そこから延びる水路を基軸として集落が構成されていた。10~20mの高さの崖線には落葉広葉樹を中心とした二次的森林があり、集落の背景として、崖線沿いの歴史的風致を構成する重要な要素となっている。近年では、こうした崖線の「緑」や水路、それに沿った小径が散策コースとして整備され、多くの人々のレクリエーションの用に供されている。(図-4)

3. 地域や場所の歴史の混乱

このように都市や都市周辺の自然や緑は、他要素とも関係しながら、その土地や地域の歴史や自然などの履歴を物語る重要な役割を担っており、こうした文化性をまちづくりに活かそうとする動きが見られるようになった。その一方で、近代的な空間整備には、こうした土地の履歴を混乱させる整備も少なくない。例えば、写真-5は沿岸部の埋立地に整備された都市公園であるが、淡水池と緑で構成された陸域の公園と同様の形式であり、その場所がかつて海であった歴史を感じさせるものは何もない。もちろん、その土地の位置づけが変化すれば、過去の状況をそのまま保全することは難しい。しかしながら、その土地の特質や歴史を全く顧みず、効率や経済性を偏重した技術力まかせやデザイン偏重の空間整備は、土地の履歴に関する記憶を希薄化させ、環境に対する認識を混乱させてしまう。その土地がどのような性格を持っているのか、各時代に人々とどのように関わってきたのか等に関する記憶をとどめ、後に伝える整備を行うことが重要であると考えている。⊗



海であったところ（埋立地）に整備された水（淡水）と緑の公園

図-5安易な空間整備による地歴の混乱
 圖5 看不出原有歷史特質的景觀營造。

異，完全看不出來以前曾經是海域的痕跡。雖然要保有過去的風貌有其困難度，但是完全不顧地方原有的歷史特質，用方便行事的規劃把土地的歷史記憶隱沒，則造成了人們對風景解讀的混亂及困惑。土地上所保有的特質，留存著各個年代人類活動下所產生的歷史痕跡，空間營造上該如何把這樣的特質凸顯出來，則是重要的關鍵。⊗

譯註：

- ¹ 大名屋敷：大名類似地方諸侯，屋敷為宅邸或庭園。德川幕府讓大名在江戶(即現在的東京)建造屋敷，並讓妻子在江戶居住，也是參勤交代制度(各地方諸侯每年都需要往返領地與江戶之間的制度)時，大名在江戶的居所。
- ² 鈴懸木：學名 *Platanus orientalis*，分類上屬 *Platanaceae* 科 *Platanus* 屬，原產於歐洲。
- ³ 狹長型的農地：狹長型農地上的土地利用(圖3)可區分為宅邸、農耕地及森林。宅邸周圍的樹林稱為屋敷林，具有防風、防火、防止土壤流失與防飛砂的功能。樹種以常綠樹為主，一般選用可作為建築用材的林木，或是耐火性佳的林木。而最後方的森林則以落葉樹為主，作為薪炭林(獲取燃料)、農用林(獲取肥料)以及用材林(獲取建築用材)使用。